

北海道港湾空港建設協会

会報

令和8年5月

# 北のみなと

No.117

礼文西漁港(元地地区) (写真提供 稚内港湾事務所)





礼文西漁港(元地地区)

礼文西漁港は鉄府地区と元地地区の2地区に分かれています。

このうち、元地地区は、礼文島南部の西海岸にある第4種漁港で、昭和27年第4種漁港に指定され、昭和32年整備が始まりました。その後、平成12年、一度整備が完了した後、平成19年整備が再開し、平成20年鉄府漁港と合併し、礼文西漁港になりました。

元地地区は漁業生活と水産物流通の基地、地域の生活基盤、地元、外来船の避難港として重要な役割を果たしています。

水揚げされる主な魚種は、ホッケ、タラ、スケソウ、ウニ、コンブとなっており、ホッケが全体の半数以上を占めています。

また、水揚げ金額ではウニ、ホッケ、タラ、コンブ、スケソウとなっており、ウニが全体の4分の1以上を占めています。

一方、①荒天時における港内静穏度不足、強風による係留漁船の船体動揺、②離島特有の強風・降雪等による過酷な条件下での作業等が指摘されており、漁業活動の効率化及び就労環境改善に配慮した施設整備が求められています。

このため、①「避難船受入協議会」による避難港指示、②港内静穏度向上、強風対策を目的とした防波堤、防風柵の整備、③漁船機関故障等、緊急避難に対応した上架施設の整備等を進めています。

## — 目 次 —

### Report

北海道港湾空港建設協会 第41回通常総会開催	1
令和7年度 安全管理講習会	3
令和7年度 港湾空港工事報告会	6

### 受賞

第9回「インフラメンテナンス大賞」特別賞(国土交通省・技術開発部門)	14
土木広報大賞2025 受賞	15

### 各種記事

我が社の安全衛生管理(株式会社 吉本組)	16
私の趣味(白崎建設株式会社 代表取締役社長 白崎喬大)	18

### Topics

小樽港防波堤施設(北防波堤、南防波堤、島防波堤)が国の重要文化財に新指定	20
小樽港が北海道で初めての「みなと緑地PPP」に認定	22
北海道みなとまちの歴史【増補改訂版】刊行	23

### Information

事務局だより・訃報(石塚建設興業(株) 故 石塚宗博様)	24
業界だより	25
広報委員会だより	25

# 北海道港湾空港建設協会 第41回通常総会開催



総会の様子

令和8年4月16日（木）ホテル札幌ガーデンパレスにおいて当協会の第41回通常総会を開催致しました。

会員数78社のうち61社（うち代理人委託27社）にご出席いただき、令和7年度の事業報告・収支決算および監査報告、令和8年度の事業計画（案）・収支予算（案）について原案どおり承認されました。

なお、令和8年度事業計画として、引き続き安全管理講習会や工事報告会、北海道開発局等発注機関への要望及び意見交換に取り組んでいくことを確認しました。

冒頭、あいさつに立った藤田会長は、はじめにイラン戦争において物流の重要性が再認識されていること、また、原油由来製品の価格上昇等が懸念されると話されました。

次に協会が昭和61年設立以来、港湾空港建設業の社会的地位の向上及び発展に向け、活動を行ってきたことをはじめ、耕地面積が日本の4分の1で日本一の水揚げ高



藤田会長挨拶

を誇る北海道は日本の食料供給基地であり、四面を海に囲まれている北海道の港湾漁港整備は絶対欠かすことができないこと、また、自然豊かな北海道は感染症収束後のクルーズ船旅客の受け入れやインバウンド観光の振興に対応した港湾空港の機能強化が望まれると話されました。さらに一昨年4月には防衛力強化のため、特定利用空港・港湾として、16港が指定され、さらに1港湾、1空港追加されたこと、安全保障上も道内港湾の重要性が位置づけられたこと、働き方改革、担い手不足、生産性向上など種々の取り組みを行わなければならないこと、これに対応した作業船損料の見直しが図られていること、各意見交換会等において、今後も北海道における港湾の特殊性についても訴え続けなければならない等、これまでの取組みと合わせてまい進する姿勢を示されました。

来賓である北海道開発局の佐藤徹港湾空港部長は、日頃の港湾・空港・漁港事業の推進、令和8年度予算確保に対する当協会の支援についてお礼を述べられました。

次にアスファルトをはじめとする原油由来製品の価格上昇等、イラン戦争の影響を注視している旨の話がありました。

第9期北海道総合開発計画については食料、観光及び脱炭素の3本柱についてすべて港湾が関わっており、当協会とのパートナーシップを図りながら整備を進めたいと話されました。

また、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等、地震発生時における航路啓開等、当協会の協力等、災害に関する強靱化が必要であることも話されました。

日本港湾空港建設協会連合会の加藤雅啓専務理事からは、はじめに日頃の当協会の活動に対するお礼の言葉がありました。

次に道内港湾が物流、産業振興、観光、災害発生時における対応等を担っていること等、重要な社会インフラとして、地域の守り手、担い手になっているとの話がありました。

また、港湾建設業が地域を支えていくためには事業量確保、働き方改革、担い手確保等の基盤確保が必要であるが、特に作業船を保有・維持するためには中長期的な事業の見通し及び事業量の確保、適正な利潤の確保が重要であり、そのことが結果として地域を支えることになると話されました。



北海道開発局 佐藤港湾空港部長



日本港湾空港建設協会連合会 加藤専務理事

港関係7団体共催による安全管理講習会を会場及びWEB同時配信も行い、安全意識の向上を図るとともにCPDS取得支援を行う。

## 2) 港湾空港工事報告会の開催

港湾空港建設技術の開発、向上を目的とし、会員が施工した港湾、漁港、空港工事の中で模範となる工事を対象に施工管理、品質管理等に関する報告会を開催するとともにCPDS取得支援を行う。

## 3) シンポジウム等への参画

港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに港湾空港整備の促進に寄与するため、関係行政機関、関係団体と連携したシンポジウム等への参画。

## 2. 要望及び意見交換

### 1) 北海道開発局等に対し、港湾空港関係予算及び実施に関する要望及び意見交換会の実施

- ①港関係7団体共催による要望・意見交換会の開催
- ②日本港湾空港建設協会連合会との共催による要望・意見交換会の開催

### 2) 北海道港湾振興団体連合会の一員として港湾整備促進及び利用振興活動の参画

## 3. 調査研究

港湾空港建設技術の開発、向上に関する調査研究及び資料の収集並びにその他工事の施工等に関する事項についての調査研究の実施

## 4. 会報の発刊

港湾空港建設業における社会的地位の向上に関する宣伝及び啓発等を目的とした会報「北のみなど」の発刊（3号予定）

## 5. 他事業への参加

### 1) 日本港湾空港建設協会連合会が開催する行事の参加

### 2) 防災訓練等への参加

「災害発生時における港湾施設等の緊急的な応急対策業務に関する包括協定」等に基づく防災訓練等の参加

### 3) 北海道開発局との協働事業への参加

令和8年度も継続される各種事業及び新規事業の積極的参加

## 令和8年度 事業計画

### 1. 講習会等

#### 1) 安全管理講習会の開催

# 令和7年度 安全管理講習会

日時 令和8年2月19日(木)

場所 ホテル札幌ガーデンパレス

主催 北海道港湾空港建設協会

(一社) 北海道建設業協会港湾・漁港部会

(一社) 日本埋立浚渫協会北海道支部

(一社) 日本海上起重技術協会北海道支部

全国浚渫業協会北海道支部

(一社) 全日本漁港建設協会北海道支部

(一社) 日本潜水協会北海道支部

〔港関係7団体が安全管理講習会を開催〕

## 工事における安全対策と 労働災害の防止 建設業の安全衛生対策について

北海道港湾空港建設協会（藤田幸洋会長）と道内の港関係7団体は、令和8年2月19日（木）ホテル札幌ガーデンパレスにおいて「令和7年度 安全管理講習会」を開催しました。当日は悪天候の中、各団体の関連企業やリモート参加者を含めて101名（うちWeb参加者35名）が参加し、労働災害の現状と防止策について知識を広めました。

講習会は、北海道港湾空港建設協会 藤田幸洋会長の開会挨拶で始まり、引き続き北海道開発局 港湾空港部



〔安全管理講習会〕

港湾建設課 小林祐一専門官と北海道労働局 労働基準部 安全課 那須 真人安全課長より、工事の安全対策と労働災害の防止について講演が行われました。

また、特別講演では、建設業労働災害防止協会 北海道支部駐在 鈴木 力安全管理士より、建設業の安全衛生対策について講演が行われました。

藤田会長は開会の挨拶で、会場の参加者及びリモート参加者に対し感謝の意を表した後、建設業の課題として、生産性の向上、処遇改善など働き方改革の実



〔主催者挨拶 藤田会長〕

現に向けた取り組みが求められているとお話しました。また、建設施工の5大管理には、品質管理、原価管理、工程管理、環境管理、安全管理があり、いずれも非常に重要な管理ですが、その中でも安全管理が最も大切であ

るとし「安全は全ての事項に優先する」と強調されました。

最後に、労働災害の防止は現場に任せきりにするのではなく、企業が丸となって取り組み、経営のトップが率先していかなければならないと思っています。本日の講習会を港湾建設における労働災害の防止に役立てていただき、今後より一層、安全管理の推進にご理解とご尽力をお願いし開会の挨拶としました。

講演では、初めに北海道開発局 小林専門官より「港湾・空港・漁港工事の安全対策について」と題し、港湾・空港・漁港工事の労働災害について講演が行われました。



〔小林専門官〕

「工事事故がひとたび起きれば社会的に大きな影響を及ぼす」と前置きし、現在、事故撲滅に向けて取り組んでいる令和7年度重点対策について紹介がありました。初めに、港湾局の取り組みとなる「施工計画書の安全面からの点検強化」について説明をし、続いて、北海道開発局の取り組みとなる「安全パトロールの強化と安全管理講習会の開催」について説明がありました。これらの取り組みでは、労働基準監督署や海上保安部にも参加をしていただき、各目線で有益な指導をしていただいているということでした。

次に、潜水作業を伴う「基礎捨石均し」や「ブロック据付」等の工事で、ICTを活用し安全性を向上させる試行工事について説明がありました。潜水作業で必須となる緊急浮上ポンベの配備費用は当初設計で計上し、ダイバーカメラ、水中同時通話装置、トランスポンダ等の費用は協議により設計変更で計上すると説明されました。

続いて、令和7年度に発生した死傷災害について説明がありました。まず、全国の港湾・空港工事では18件発生しましたが死亡災害はゼロということでした。



〔那須安全課長〕

北海道開発局の港湾・空港・漁港工事では事故8件（人身1件、物損7件）、重大事案4件が発生したと報告し、これらについて事故発生状況の説明がありました。

最後に「事故事例を共有し、同じような事故が起きないように取り組んでいきたい」とお話し結びとしました。

続いて、北海道労働局 那須安全課長より「建設工事における労働災害防止について」と題し、労働災害の現状と取り組みや法改正について講演が行われました。

北海道労働局では第14次労働災害防止計画を推進し、令和9年の死亡災害者が45名以下となるよう目標をたて労働災害防止に取り組んでおります。しかし、現状は厳しく、都道府県別死亡災害では北海道のワーストワンが続いている状況です。業種別では建設業での発生が圧倒的に多く、型別でみると、建設業では建設機械の巻き込まれ、林業では伐木の下敷き、畜産では機械の巻き込まれが多く発生しているので、これらについて行政指導を強化しているということでした。

次に、港湾工事の死亡災害事例2件を紹介し、波浪警報発令時や津波警報発令時の対応と高気圧作業安全衛生規則の遵守について注意喚起を行いました。

続いて、労働安全衛生法の改正と段階的な施行について触れられ、これまで法の適用外であった個人事業者（一人親方）も労働安全衛生法による保護の対象及び義務の主体と位置付けられたことから、発注者が個人事業主に行う指導と措置義務、個人事業主が遵守すべき義務について説明がありました。

この後、「技能講習修了証の偽造防止対策」と「高齢者の労働災害防止の推進」について説明をし、18年ぶりに札幌で開催される「全国産業安全衛生大会」への参加を呼びかけ、最後に、本日の参加者が無事故、無災害で工事を終わられることを祈念し、終わりの挨拶としました。

特別講演では、建設業労働災害防止協会の鈴木安全管理士より「北海道における建設業の安全衛生対策について」と題し、講演が行われました。



〔鈴木安全管理士〕

北海道の令和7年12月末現在の労働災害発生状況は、全産業で6,927名が被災し48名が亡くなっています。建設業では741名が被災し15名が亡くなっています。昔、炭鉱が稼働していた頃は、一度の爆発災害で100名近く

亡くなることもありました。炭鉱が閉山し建設現場の安全水準が向上してきたことから労働災害の発生は右肩下がり減少し、令和7年度の死亡災害者数は過去最低であったことを説明しました。

北海道は全国的にも労働災害の発生が多く、近年では仕事中の交通事故が多く発生しています。これは、高速道路の普及により現場での泊りがなくなり日々の通勤が増えたことと、本州より冬道の事故リスクが高いためです。また、北海道の人は暑さに弱いのか、熱中症の発生も増えています。加えて、本州と比べ目標工期が雪の降る前となるため、追込み期となる10月から11月に作業ミスによる死亡災害が増える傾向があるためですと説明しました。

続いて、潜水作業中と鋼矢板引抜中に発生した死亡災害事例について説明をし、最後に、「港湾工事はクレーン作業あり、高所作業あり、安全衛生対策もありと色々な安全対策が求められる現場なので、安全管理担当者のスキルが大事です。また、各担当者が無災害であり続けられる理由、そのための取り組みやリスク対策を説明できることが今のリスクアセスメント時代の考え方です」と締めくくり特別講演の結びとしました。

# 令和7年度 港湾空港工事報告会

月 日 令和8年2月19日(木)  
会 場 ホテル札幌ガーデンパレス  
主 催 北海道港湾空港建設協会

令和8年2月19日(木) ホテル札幌ガーデンパレスにおいて、123名の参加(うち、WEB参加37名)による当協会主催の「令和7年度 港湾空港工事報告会」を開催しました。

報告された工事は、令和6年度に葵建設株式会社、堀松・ハラダ経常建設共同企業体、株式会社菅原組及び勇建設株式会社が施工した4件で、工事を担当した技術者が工事内容、現場における課題及びその対応、地域貢献などを紹介しました。参加者は各工事の(工程・品質・安全)管理、創意工夫、ICTなどについて活発な質疑を行い、技術の研鑽を深めました。



港湾空港工事報告会

## 主催者挨拶

開催にあたり、主催者を代表して北海道港湾空港建設協会 藤田会長から当協会は昭和61年設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させることを主目的として事業を行っており、事業の発展を図るためには、各会員の真摯で、たゆまぬ努力による技術力の開発、向上が不可欠であること、その中で、令和6年度に完成した工事から、難易度の高い工事、評価点の高い工事4件を選定したことの説明がありました。

また、発表者には日頃の研鑽の成果を十分、発揮してほしいと挨拶されました。



主催者挨拶 藤田会長

## 来賓挨拶

主催者挨拶の後、来賓としてお越しいただいた北海道開発局港湾空港部 星港湾建設課長から来賓挨拶をいただきました。

星課長からは①最近の降雪対応をはじめ、会員企業に対して、自然相手の厳しい条件下における事業実施に対するお礼、②昨年度の発表内容について、国土交通省との打ち合わせ時に紹介しており、今年度も紹介する予定であること、③令和8年度予算に係る執行予定について説明がありました。



来賓挨拶 星港湾建設課長

## 工事報告

工事報告は、葵建設（株）、堀松・ハラダ経常建設共同企業体、（株）菅原組及び勇建設（株）の工事当事者が工事概要、施工管理及び課題に対する対応等について報告されました。

### ○羅臼漁港突堤建設その他工事



葵建設株式会社  
土木部 工事課 課長 佐藤 祐介氏

- ・受注者 葵建設株式会社
- ・工期 令和6年9月10日～令和7年3月21日
- ・発注者 釧路開発建設部
- ・工事内容
  - 突堤
    - ・構造物撤去工、本体工（ケーソン式）、本体工（場所打ち式）、被覆・根固工、上部工 各1式
  - 船揚場（補修）
    - ・構造物撤去工、土工、舗装工、張ブロック工、張コンクリート工、船揚場工 各1式
  - 用地（改良）
    - ・土工、舗装工、各1式
  - 揚排水ポンプ設備（維持修繕）
    - ・製作工、据付工 各1式
- ・報告概要
 

はじめに羅臼漁港の歴史、水産業に係る現状について説明されました。

その後、本工事の目的、工事内容等説明されました。

課題等については、①前工事の影響を受け、起重機船入港が遅延したこと、漁業活動の影響を受け、1月以降

に各工種が集中したことから担当職員を増員するとともにコンクリート打設回数の削減を図ったこと、②当初、予定していた積出岸壁が漁船利用のため、使用不可になったこと、③揚排水ポンプ製作に6か月必要であることが判明したことを報告されました。

特に船揚場に関しては①上架船舶でほぼ満杯であるにも関わらず、工事中も上下架作業が行われたこと、②工事施工箇所近傍に移動困難な船舶があり、限られた区域での施工となったこと、③構造物撤去工において工事着手が1月中旬以降との制約があるにも関わらず、当初、プレキャスト部材を想定していた張ブロックが場所打ちコンクリート構造だったことから施工方法等の見直しが必要になったこと、④施工方法の見直し等により3月中旬までの船揚場開放が困難となり、施工範囲の変更に対応した施工内容の変更が必要となったことが報告されました。

また、過年度工事において、流水来襲により繰越した経験から施工箇所前面を大型土嚢を設置し施工したことも報告されました。

### ○天塩港航路浚渫その他工事



堀松建設工業株式会社  
土木部 工事長 小川 泰弘氏

- ・受注者 堀松・ハラダ経常建設共同企業体
- ・工期 令和6年4月6日～令和7年3月27日
- ・発注者 留萌開発建設部
- ・工事内容
  - 航路（-6m）
    - ・春期浚渫：V=9,335m<sup>3</sup>
    - ・秋期浚渫：V=28,189m<sup>3</sup>
    - ・グラブ浚渫、土運船運搬、揚土土捨、仮設工 各

1 式

## ○防波堤（西外）

- ・ケーソン据付 1 函 (L16m × B8.5m × H6.5m W=573t)
- ・撤去工 1 式、床掘 (V=196m<sup>3</sup>)、基礎捨石 (V=477 m<sup>3</sup>)、洗堀防止工 (ASマット) 1 式、10t石かご 1 式、ケーソン中詰材 (V=650m<sup>3</sup>)、18t蓋ブロック 1 式、2t被覆ブロック 1 式、25t根固方塊 1 式、上部コンクリート (V=278m<sup>3</sup>)、30t消波ブロック据付 1 式

## ・報告概要

はじめに公共事業用の砂の積出をはじめとする天塩港の利用状況、次に工事内容について説明がありました。

施工条件として、浚渫関係では①供用係数について、設計ではランク 1 が実態はランク 5 に相当すること、②水産業（サケ）の関係から 4 月は稚魚放流、9～11 月は漁獲期のため施工制約を受けること、③沿岸漂砂及び天塩川からの土砂流入による堆砂の影響を受けること、④砂運搬船（最大 4 隻/日）航行時においては作業船団が退避しなければならないことが報告されました。また、防波堤（西外）では①供用係数について、設計ではランク 4 が実態はランク 6 に相当すること、②天塩川からの濁水流入を受けること、③過去の被災等を踏まえ、8 月中旬までに施工完了しなければならない等の条件下での施工となったことの説明がありました。

これらの課題に対し、春期浚渫については①揚土ピット内の土砂滞留防止のため砂質土及び粘性土を混合するために浚渫箇所を変更したこと、②手戻り防止を目的として区画分割による施工管理を行ったこと、次に秋期浚渫においては利用者会議の結果を踏まえ、施工効率向上等を目的に従前の薄層浚渫（土厚 1 m、作業効率低下等）からトレンチ浚渫（幅 30m、土厚最大 5 m 作業効率向上）へ変更するとともに、進捗状況の共有を目的に 3 次元出来形図を毎週、利用者に提供したことが報告されました。

また、防波堤（西外）の施工においては①作業効率向上を目的とした、波高観測（実況）及び長期予測を活用した振替休日及び基礎捨石均しシステムの採用、②均し

作業における手戻り防止対策として本均し範囲にブロックの仮置、③工期短縮等を目的とした 2 船団配置、上部工施工にあたっては 6 分割から 3 分割に変更、消波ブロックについては呼び強度の変更 (21N/mm<sup>2</sup>→27N/mm<sup>2</sup>) による早期据付を行ったとの報告がありました。さらに ICT 施工（作業船誘導管理システム）による工期短縮も報告されました。

## ○函館港西防波堤改良工事



株式会社 菅原組  
工事本部 工事部 工事長 澤谷 高広 氏

・工期 令和 6 年 3 月 13 日～令和 6 年 12 月 2 日

・発注者 函館開発建設部

・工事内容

### ○西防波堤

・上部工

上部コンクリート L=89.4m

上部ブロック運搬据付 N=26個

・構造物撤去工

コンクリート取り壊し V=1,130m<sup>3</sup>

### ○函館港（北ふ頭ブロック作業ヤード）

・上部工

上部ブロック製作 N=26個

上部ブロック製作仮置 N=14個

・仮設工

敷鉄板設置撤去 A=1,013m<sup>2</sup>

均しコンクリート工 V=18m<sup>3</sup>

・報告概要

工事概要の説明後、上部工について、施工効率向上、

品質向上等を目的として当初、水中コンクリートによる現場打ちコンクリートからVFMに基づく評価を行い、プレキャストブロックに変更したとの説明がありました。

具体的には①水中コンクリートの場合、水中部削孔8日、水中コンクリート施工26日の計34日要するのに対し、プレキャストブロックの場合はブロック製作20日、ブロック据付1日、水中部削孔4日、薬液注入3日の計28日と6日工期短縮が図られること、②施工位置が干満帯のため、水中コンクリートの場合、必要となる潜水作業がプレキャストブロック採用により省人化が図られること、③波浪によるコンクリートの品質確保、型枠変状等の影響を回避できること等を説明されました。

次に具体的なVFMの詳細について説明があり、場所打ち53.2点に対し、プレキャストブロックが81点であったことが報告されました。

工事特性については、上部ブロック海上運搬ルートはフェリーをはじめ、旅客船航路を横断することから①利用者をはじめとする関係者に対し海上作業週間計画表を配布したこと、②フェリー発着時間前後30分における上部ブロック海上運搬を回避するサイクルタイムの採用、③事故防止を目的に大型ディスプレイを用いた作業従事者へのフェリー入出港時刻の周知が報告されました。

次に①4週8休確保、作業効率向上を目的とした気象・海象トータルサポートサイトの活用、②他利用者と競合する北ふ頭（積出岸壁）における利用調整、③防波堤機能を確保しながら工事を進めるための施工位置、施工順序の検討について説明されました。

また、創意工夫については①VRを用いた安全教育、②海上コンクリート取り壊し時における取り壊しコンクリートの海中転落防止対策、③3Dプリンターを用いた複雑な階段部製作、④現場作業負担軽減を目的とした業務管理課（業務支援、ICT、積算等担当）との協力体制について報告されました。なお、3Dプリンターによる階段部製作は発注者、コンサル及び他建設会社等にも公開して行われたとの報告がありました。

## ○新千歳空港美沢川函渠耐震補強その他工事



勇建設株式会社

工事部 課長代理 井田 直人氏

- ・受注者 勇建設株式会社
- ・工期 令和6年6月11日～令和7年3月6日
- ・発注者 札幌開発建設部
- ・工事内容
  - 美沢川函渠
    - ・耐震補強工
      - コンクリート削孔 N=5,725本
      - ポストヘッドバー-D16 N=1,695本
      - ポストヘッドバー-D19 N=2,659本
      - ポストヘッドバー-D22 N=1,371本
  - ・仮設工
    - 既設フェンス復旧 L=8m
- ・報告概要
 

工事目的、工事概要、施工位置の説明後、耐震補強工法（ポストヘッドバー工法）、施工フロー及び施工内容について説明されました。

施工上の課題として①密に配筋された既設函渠鉄筋の損傷防止対策、②豪雨時における函渠内水位上昇を考慮した安全対策、③制限区域内における事故防止対策の3点があり、これらの課題に対し、①鉄筋探査における「埋設物非破壊探査装置」の採用、また、削孔作業時において、ベンチャードリルに「金属センサードラム」を取り付け、鉄筋感知時に瞬時に削孔を停止、②上流側仮締切部に水位計を設置し、避難開始水位（仮締切高の6割）に達した場合、工事関係者にアラート通知等による函渠

外への退避、③制限区域入場時における立ち入り腕章、旗、所持品確認の確実な実施、入退場ゲート鍵にスマートタグを取付け、位置情報の把握を行ったことが報告されました。

創意工夫については①削孔（5,725本）の出来形管理に関し、測定結果を電子タブレットに入力することにより、測定時間の短縮（12hr）及びミス防止が図られたこと、②断面修復モルタル養生時に自動で湿度計測、養生給水機械運転を行う「養生無人化システム（自社開発）」を採用し、品質向上を図ったこと、③熱中症対策として実況及び1時間後のWBGTと風速をモニター表示し、基準値に達した場合、回転灯で周知する気象予測システムの採用について報告されました。

安全対策については①狭隘な函渠内において最大8パーティ作業することから3Dモデルによる現場状況を再現し、課題抽出、配置計画を検討するとともに、作業員にも視覚教育を行ったこと、②函渠内は暗所及び通信環境が悪いことから外部を含めたコミュニケーション機能向上を目的にWiFi環境の設定、クラウド録画型ウェアラブルカメラの設置、全工事関係者へのシルウォッチ貸与を行うとともに現場事務所において、各情報をモニタリングするとともに指示を行ったこと、③作業足場については安全性及び作業効率向上を目的として、標準的な移動式足場ではなく、全面に作業床を設置したことにより、安全性向上及び作業日数の短縮（15日）が図られたことの説明がありました。

また、工事排水による美沢川の濁水防止対策として、沈砂タンクを設置するとともに2種のろ過材を用いてろ過処理を行ったこと、函渠内作業環境確保のために5m間隔でのLED照明灯設置、酸素濃度確保のための送風機（2台）設置、硫化水素、粉塵等の測定を行ったことが報告されました。

### 講 評

最後に技術委員会、梅沢信敏副委員長より各工事報告について以下の講評が行われました。

技術委員会副委員長を仰せつかっております梅沢です。  
ご来賓の北海道開発局 星港湾建設課長様、並びに本

日の工事報告会に会場、また、WEB聴講にてご参加くださいました皆様、誠にありがとうございます。

講評の前に、大変ご多用の中、特別講演を快くお引き受けくださいましたNPO法人ワインクラスター北海道・代表理事の阿部真久様に厚くお礼申し上げます。

ワイン通の方から私のような初級者まで、道産ワインの現状と魅力、また、将来性や課題につきまして、とても分かりやすくご講演いただき、誠にありがとうございました。本日のご講演を契機に、港湾建設業を営む私も道産ワインの振興・発展に向けて、何らかの関わりや寄与ができればと願う次第です。

本日はこのあとの交流会におきまして、阿部様ご推薦の道産ワインを5種類選定していただき、実務講習を兼ねたテイastingタイムもご用意しておりますので、是非この機会に道産ワインの魅力に触れていただければと思います。

では、ここから本日のご報告に対しまして、若干、感想を申し述べまして、講評に代えさせていただきますと思います。

まずは、ご報告いただきました4名の皆様、今年度もそれぞれの受注工事を担当されておられる中、本発表資料の取りまとめ、並びにプレゼンテーションの準備、そして本日の発表と大変ご多忙の中、誠にありがとうございました。

報告議題の一番目は、佐藤様のご報告によります葵建設株式会社施工の「羅臼漁港突堤建設その他工事」でした。

本工事での特筆すべき点は、工期が9月から3月末までと厳冬期を挟む約半年間の中で、施工箇所と工種の異なる4つの工程を随所に創意工夫を凝らして無事故で完工させたことが挙げられます。

特に突堤工事の上部工の打設にあたっては、支保工と一体化させた型枠を独自に製作、導入することにより、施工の効率化と安全性の向上を図ったこと、また、船揚場の補修にあたっては、厳冬期の1～3月の施工期間に、現地の写真にもありました通り、施工場所に上架された漁船が隙間なく配置されている中での施工ということで、漁業者との綿密な協議を行いつつ、施工の効率化

と安全対策に工夫が凝らされており、高く評価できるものです。

一方で、既存の老朽化した船揚場施設の設計図書との大きな乖離、すなわち、張ブロックで施工されているはずのものが、場所打ちコンクリートで施工され、ダミーの目地が切られていたこと、またその事実が過去の老朽化調査等で気づかずに、施工時に判明したことに衝撃を受けました。本施設の施工当時の状況が不明ですので、如何ともしがたいところがありますが、今回の緊急的な設計変更協議や迅速かつ誠実な施工対応、大変お疲れ様でした。

貴重なご報告、誠にありがとうございました。

報告議題の二番目は、小川様のご報告によります堀松・ハラダJV施工の「天塩港航路浚渫その他工事」でした。

本工事は、鮭の仔魚放流や漁業期の制約がある中、貨物船の行き交う主要航路での浚渫作業と第一線防波堤の西外防波堤のケーソン据付作業を行うものです。

航路浚渫作業では、浚渫土砂の性状も加味した綿密な浚渫計画を立案するとともに、浚渫出来形を可視化した3次元出来形図を用いて、毎週、利用者である砂運搬業者にも情報発信し、暫定利用に対する理解を促進する取組を行うなど、効果的かつ円滑な施工管理に努めた点が特筆されます。

また、西外防波堤のケーソン据付工事では、令和4年、5年の過去2年間の類似工事において、8月中旬以降にいわゆるお盆明け後の高波浪によって本体工が滑動するという被災があったことから、施工完了のリミットを8月中旬前までとして、上部工スパンの大分割施工やICT技術を活用した消波ブロック据付等による工期短縮への取組を鋭意行った結果、当初の計画工程を18日間も短縮し、無事8月7日までに完了させました。こうした被災を防ぐ上での高い見識と技術力、そして強い責任感に対しまして、心からの敬意を表する次第です。

貴重なご報告、誠にありがとうございました。

報告議題の三番目は、澤谷様のご報告によります株式会社菅原組の施工による「函館港西防波堤改良工事」でした。

当工事は、函館港の第一線防波堤である西防波堤において、劣化の著しい上部工を改良する工事ですが、特筆すべき点としては、受注者提案により、場所打ち式からプレキャスト部材に切り替えて、上部工を施工し、工期短縮、品質向上等の成果を上げたことが挙げられます。ご説明にあった通り、プレキャスト部材への変更にあたっては、国交省港湾局で策定された「港湾工事におけるプレキャスト工法導入検討マニュアル」を使用し、バリュー・フォー・マネー（VFM）の手法により、場所打ち式との比較検討を行うわけですが、本報告にもありました通り、多少の価格差をそれ以外の価値、すなわち、工期短縮や品質の向上、安全性の向上といった効果の方が上回り、100点満点で30点近くもプレキャスト部材採用の方が高いという結果になっています。このようなことから、他港や他の工種においても単純な工費比較では場所打ち式が有利な場合にあっても本マニュアルを活用することで、プレキャスト工法の方が総合的に有利になるケースが今後益々増えることが期待されることから、これは発注者側のご当局への要望になりますが、是非、もっと上流側の構造設計段階や発注前までにVFM評価を終えて、プレキャスト工法を当初発注段階からより積極的に導入していただきたいと思う次第です。

本工事に戻りますと、積出岸壁と西防波堤間の航路を横断しての作業台船の往復に関しても、フェリーの出入港や他の船舶の動静に十分配慮したサイクルタイムの計画を立て、作業従事者への周知も大型ディスプレイなども活用して徹底するなど、安全対策にも多くの工夫が凝らされている点も高く評価できるものと思います。この他にも3Dプリンターを活用した階段部の製作につきまして、港湾工事への適用は初めて目にしましたが、大変ユニークかつ将来性のあるものとして、今後、各方面での応用が期待されます。

貴重なご報告、誠にありがとうございました。

報告議題の四番目は、井田様のご報告によります勇建設株式会社の施工による「新千歳空港美沢川函渠耐震補強その他工事」でした。

本工事は運用中の新千歳空港の地中部を流れる美沢川の函渠、すなわち既設の河川トンネルを耐震補強する工

事です。

本工事の実施に当たっては、ポストヘッドバー（PHb）工法というせん断補強鉄筋を既設函渠の上下左右の4面全てに渡り、30cmピッチで千鳥配置に埋め込む必要があります。その際に既設の配筋を傷つけずに確実な施工と品質確保が求められます。また、本施工にあたっては、二人一組で8パーティ、最大10パーティによる作業を河川トンネル内の密閉空間で行う計画となっておりましたが、その際の安全対策に万全を期す必要があります。

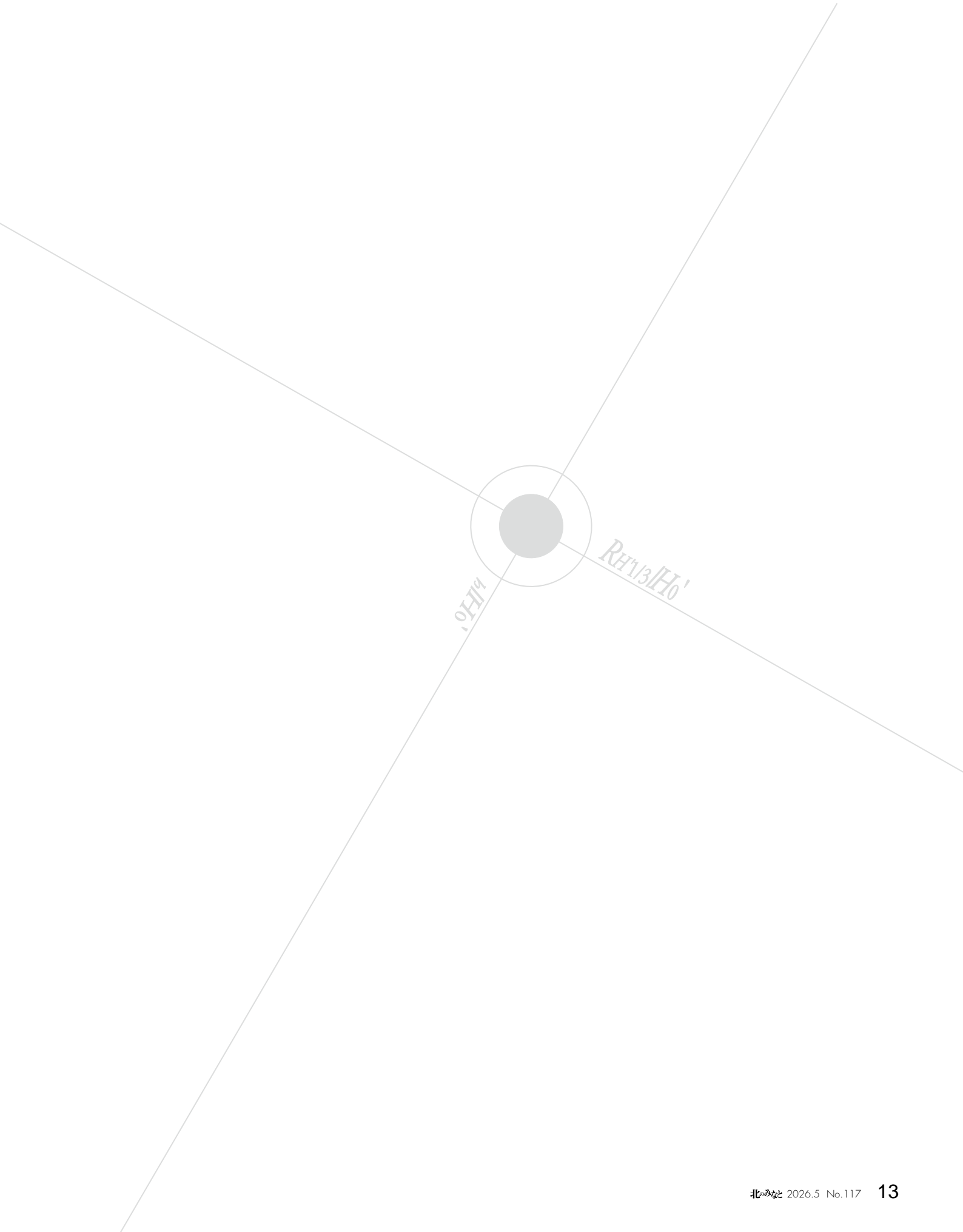
この大きな二つの課題に対し、随所に最新技術や自動化技術を織り込み、考えうる創意工夫を総動員するとともに、作業員一人一人に分かりやすく周知を図り、まさに作業員の命を守ることを最優先にした施工計画を立案し、実施に移し、無事故で高品質の成果物を完成させたことに対しまして、心からの敬意を表する次第です。

貴重なご報告、誠にありがとうございました。

最後に、あらためまして、特別講演をお引き受けくださいました阿部様、並びに、工事報告をいただいた佐藤様、小川様、澤谷様、井田様、そして、ご来場、またWEB聴講によりご参加くださいました全ての皆様に厚く感謝申し上げます、講評に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。



講評 梅沢技術副委員長



# 第9回「インフラメンテナンス大賞」 特別賞(国土交通省・技術開発部門)

## 【港湾・海岸分野】 球体発射・回収装置による栈橋下面の打音調査システム

五洋建設株式会社

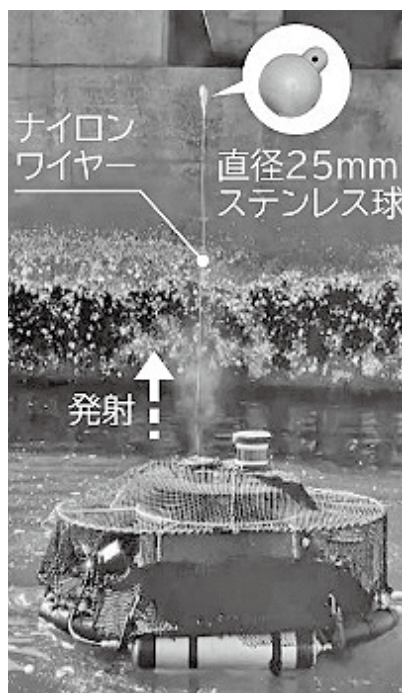
五洋建設株式会社は、第9回インフラメンテナンス大賞において、「球体発射・回収装置による栈橋下面の打音調査システム」で社会資本のメンテナンスに係る優れた技術開発として特別賞を受賞しました。

本技術は、栈橋下面のコンクリート打音調査において、安全性と作業効率を向上させるものです。無人小型ボートに球体発射・回収装置を搭載し、遠隔操作で圧縮空気により金属球をコンクリート面に発射して打音データを取得します。得られたデータの周波数解析を行うことで、コンクリートに発生した浮きを客観的に判定できます。この手法により、仮設足場の設置が不要となり、従来的人员による打音に比べ調査者の身体的負担が解消され、調査に伴う危険性を大きく減少できます。

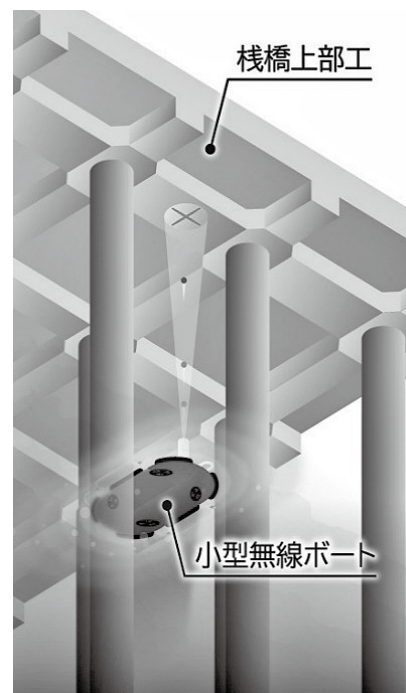
受賞理由として、無人ドローンを用いて栈橋下面の打音検査を遠隔操作できること、点検の効率化に寄与する技術であると共に作業員の安全性向上に貢献する技術であることが評価されました。



小型無線ボートの外観



打音実施状況



栈橋下面の球体発射イメージ

※インフラメンテナンス大賞とは

インフラメンテナンス大賞は、国土交通省、経済産業省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、環境省及び防衛省が、日本国内における社会資本のメンテナンス（以下「インフラメンテナンス」という。）に係る優れた取組や技術開発を表彰し、好事例として広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として実施するものです。

# 土木広報大賞2025 受賞

株式会社 西村組

この度、株式会社西村組は、公益社団法人 土木学会 土木広報センター主催の『土木広報大賞2025』において、北海道の企業として初めて商業広告部門の優秀部門賞を受賞しました。

西村組では、『誰もが知っている、誰も見たことがない建設会社』をビジョンとして、社長自らがラップを披露した採用MVの製作、インターンシップにおけるキャンプ企画の実施など、様々な取り組みを行ってきました。今回の応募では、SNS(X)やYouTubeを用いた広報活動、弊社の歴史を題材とした舞台作品の制作など、近年の活動を取りまとめた内容が評価されました。

昨年6月に札幌市の『生活支援型文化施設 コンカリーニョ』で上演した舞台作品『2436 西村組曲■序曲』では、弊社が20年以上施工を担当している『アイスブーム建設工事』の歴史を基にした物語を上演しました。本公演は、初回公演が満席となるなど、社内は勿論のこと、道外からも高い関心が寄せられました。

また、株式会社asir様が公開する、地方企業の若手社長への密着YouTube番組『社長ついていってもイイですか』への出演や、各種イベントでの登壇活動などを通し、若年層を含む幅広い世代に建設業の仕事を知ってもらうことを目的として、広報手法を広げてきました。

今後も西村組では、建設業の重要性や意義を分かりやすく伝え、人々に建設業への関心を深めてもらうために、広報活動を続けてまいります。



## \* 「土木広報大賞」とは？

公益社団法人 土木学会が優れた土木に関する広報活動や作品を顕彰する賞で今回5回目となります。今回は88件の応募の中から優秀部門賞をはじめ、15件が選ばれました。

# 我が社の安全衛生管理

株式会社吉本組 執行役員事業部長 高橋 英二



## 1. はじめに



当社は昭和23年創業以来、今年で78年に至っています。後志地方を拠点に港湾、漁港、道路、水産、農業などの総合建設業者として事業展開を図っているところです。経営理念のもとに社業の発展を通じて地域社会への貢献の精神を持って社員一同が幸せになることを目標に、最高の技術力を結集し顧客や地域社会に対して安心していただける建設物の提供を目指しています。



## 2. 店社労働安全衛生基本方針



当社では以下の労働安全衛生基本方針を掲げており、当社で働くすべての人々の安全第一を常に心がけています。

### 【労働安全衛生基本方針】

「安全第一を常に心がけ、的確な安全衛生管理を行うことにより労働災害の絶無を図る」

- 1) 協力会社との連携を強化し、安全意識の向上と作業手順の徹底により、ヒューマンエラーによる災害・事故を防止します。
- 2) 法令順守の徹底とリスク評価による適切な対策を図ることで労働災害の防止に努めます。
- 3) 作業環境向上と健康管理を常に心がけ、疾病の予防と快適で安全な職場形成に努めます。



## 3. 店社安全衛生管理計画



労働安全衛生基本方針をもとに、年度当初に店社統一安全スローガンや安全重点施策、実施項目などを定めた「店社安全衛生管理計画」を策定しています。

各作業所では、店社安全衛生計画に基づき、施工計画当初に作業所安全衛生管理計画を策定した上で各作業所での安全目標を設定し、労働災害ゼロを目指します。



## 4. 店社安全衛生管理活動



### 1) 安全大会

毎年5月に当社・関連会社および協力会社合同で「環境・労働安全衛生・交通安全大会」を実施しています。



環境・労働安全衛生・交通安全大会 社長訓辞

安全祈願、社長による訓辞をはじめ、社員表彰、安全教育や安全講話などにより、労働災害ゼロへの意識向上を図ります。



環境・労働安全衛生・交通安全大会 安全講話

### 2) 店社安全パトロール

事業部長および役職員による「安全推進委員会」を組織し、毎月1回店社安全パトロールを実施し、各作業所の労働安全衛生の管理状況を点検しています。

この点検では現場担当者とは違った視点で実施し、また是正箇所の指摘だけではなく、創意工夫などでの推奨事項を取り上げ、他作業所への水平展開を実施して現場環境改善を促しています。



店社パトロール実施状況

### 3) 吉祥会（協力会）パトロール

安全推進委員会を中心に会長、社長、役職員ならびに協力業者合同で協力会パトロール「吉祥会パトロール」を実施し、各作業所の労働安全衛生の管理状況を確認し役職員ならびに協力業者間の安全意識の共有を図っています。



吉祥会（協力会）パトロール

## 5. 作業所安全衛生管理活動

工事着手前には担当者をはじめ、役職員による施工前検討会を実施し、想定されるリスクの抽出、リスクの軽減策を検討します。着工後に新たに発生したリスクについても、本社の指導の下、現場においてリスク軽減を図り、労働災害ゼロを目指しています。

施工中は安全朝礼・危険予知活動、新規入場者教育・作業手順周知会の随時実施、月次安全教育や災害防止協議会の実施など様々な安全活動を行い、リスク軽減と安全意識高揚に努めています。



3Dモデルを使用した新規入場者教育

月次安全教育は従来の安全資料・安全ビデオだけでなく、3DモデルやVRゴーグル等を使用して従事する労働者にわかりやすく、また実体験に近い体験を得られるように工夫し行っています。



VRゴーグルを使用した安全教育



## 6. むすびに



建設業の担い手不足が進行するなか、時代の変化に柔軟に対応しICT施工や働き方改革に積極的に取り組み、また、中高生の職場体験やインターンシップ受け入れ等で建設業への興味が湧くように活動しております。

これからも本社・作業所・協力業者が一丸となり、関係者一人ひとりが「一歩前進」の精神を常に心がけ日々邁進することで労働災害の絶無を目指していきます。



中高生の職場体験

# 私の 趣味

## 『たくさんある 北海道の道の駅めぐり』

白崎建設株式会社 代表取締役社長 白崎 喬大

私の趣味というコーナーではありますが、残念ながら今現在、自信をもっていえるものを持ち合わせておりません。学生時代は、音楽を聴いたり本を読んだりしているいろいろ語れるものがあつたのですが、今はそこまで熱中しておりません。色々頭を巡らせていたところ、ご紹介できると思いついたのがタイトルにもある道の駅めぐりです。仕事含め、様々な用事で全道各地色々な地域にお伺いすることが多くあります。その合間に道の駅を訪れていることに気づきました。そこで、今回のテーマを道の駅めぐりとさせていただきます。

原稿作成の現在で北海道の道の駅は124か所あるそうですが、調べたところ私は約3分の2の道の駅を訪れたと思います。もしかしたら本記事を読まれた方にも全道の駅を制覇した方がいらっしゃるかと思いますが、私自身はまだまだ道半ばの立場としての記事であることをご理解ください。

道の駅めぐりのきっかけについてお話いたします。きっかけは新型コロナウイルスでした。新型コロナウイルスの影響により様々な行事が中止され、以前より時間がある一方で道外に行くことが難しくなりました。コロナ感染者数が落ち着いている期間に道内旅行を楽しもうと考えました。色々な地を訪れる中で、妻から道の駅のデジタルスタンプラリーについて教えてもらいました。これは、スマートフォンのGPS機能を利用し、道の駅にいる状態でサイトにアクセスすると自分のアカウントのアカウント上のスタンプがたまっていくものです。本物のスタン

プもありますが、このサービスを利用していました。道の駅に行けば、私自身がこれまで知らなかった各地の名産品や食べ物があり、レストランで食べることやお土産を購入することもできますし、休憩をすることもできます。また、各地の道の駅自体に特徴があり驚きがあることや、ほかの施設に併設した形で設置しており現地に行くことで別の施設に行くきっかけにもなりました。

個人的なおすすめの道の駅をいくつかご紹介したいと思います。一つ目は、長沼町のマオイの丘です。こちらは、カルディの会社が運営しておりショップも大変充実しており、建物もしゃれていいます。野菜の直売所も充実しており、地元で収穫された野菜を購入することができます。レストランも本格的でピザ窯で焼いたピザを食べることができます。この道の駅は、目的地として長沼町を訪れるきっかけになりました。道央圏連絡道路のランプにも近くアクセスも良いです。



道の駅 花ロード恵庭

次にご紹介するのはみたら室蘭です。この道の駅は白鳥大橋の近くにありま。道の駅にも室蘭のお土産が多数そろっており、道の駅自体の中にも魅力はあります。室蘭のお土産ポルタも豊富に取り揃えています。一番の魅力は白鳥大橋です。これまで何度か釧路の人と一緒に室蘭に行きましたが、室蘭からの帰り道は一度道の駅に寄った後に白鳥大橋を通過して釧路に帰るようにしています。一緒に行った人からは白鳥大橋から見る景色に感動している方がおり、いつも少し遠回りしてよかったなと思っています。

次にご紹介するのは、道の駅 厚岸グルメパークです。こちらの道の駅のポイントは何といても食です。「北海道・道の駅スタンプラリー」の完走者が選んだ道の駅ランキングにおいて、「いちおしの『おいしいもの、』」で毎年1位を獲得しております。厚岸の牡蠣をはじめとした、おいしいものを堪能することができます。

次にご紹介するのは、道の駅 スワン44ねむろです。こちらの魅力は何といても風連湖です。根室市はバードウォッチングの聖地で日本に生息する鳥の多くが確認されております。風連湖は日本最大級の白鳥の飛来地でもあります。また、手つかずの自然が残っている春国岱も近い場所にあります。

このように道の駅には様々な特徴があるだけ



道の駅 ぐるっとパノラマ美幌峠

く、道の駅に寄ることで、別の場所の魅力に気が付くこともあります。北海道各地の魅力を改めて認識することができます。北海道は広く、地域によって特徴は大きく異なります。北海道内で旅行に行かれる際は道の駅をもとに行き先を決めてみてはいかがでしょうか。また、道内で出張される際は、道の駅に寄ってみてはいかがでしょうか。

RH13/H0'



b/H0'

# 小樽港防波堤施設 (北防波堤、南防波堤、島防波堤)が 国の重要文化財に新指定

～百年を超えて小樽港を激浪から護り続ける長大な防波堤～

小樽開発建設部 小樽港湾事務所

このたび、小樽港の三つの防波堤（北防波堤、南防波堤、島防波堤）が、文化審議会文化財分科会での審議・議決を経て、重要文化財に新規指定するよう文部科学大臣に答申され、令和8年1月15日の官報告示をもって、「小樽港防波堤施設」として正式に国の重要文化財となりました。これは、北海道開発局の土木構造物としては初めての重要文化財指定となりました。

(登録の概要)

小樽港防波堤施設 3所

北防波堤 延長1,559.9m (完成年：明治41年)

南防波堤 延長914.8m (同：大正前期)

島防波堤 延長915.5m (同：大正9年)

附 旧北防波堤斜塊1個、銘板4枚

(所在地) 北海道小樽市手宮1丁目地先、同築港地先、  
同築港2番2号

(所有者) 国 (国土交通省)



写真-1 小樽港防波堤施設

小樽港防波堤施設の整備は二期に分けて行われ、第一期工事（明治30年～同41年）では北海道廳（庁）技師であり「港湾工学の父」と称される廣井勇（小樽築港事務所初代所長）が中心となり、北防波堤が建設されました。廣井は風や波、地質の調査をはじめ、海底地盤の強さ、捨石の挙動、コンクリート強度など、数多くの入念な調査を重ね、その成果を設計・施工に反映させました。

続く第二期工事（明治41年～大正10年）では、北海道廳（庁）技師の伊藤長右衛門（小樽築港事務所第三代所長）が中心となって南防波堤、島防波堤、そして北防波堤の延長部が整備されました。

小樽港防波堤施設は、巨大なコンクリートブロックを傾斜して積み上げる手法や鉄筋コンクリート製ケーソンによる安定性に優れた構造体と、火山灰を混合した経済性と強度を両立したコンクリート技術により、竣工から100年以上経過してなお激浪の衝撃に耐え続ける、明治期及び大正期の最高水準の港湾技術で築かれた土木構造物です。また、日本人技術者が調査、計画、設計、製作、施工までの全てを統括して完成し、北海道開拓の重要拠点である港湾都市小樽の発展を支え続けた記念碑的な大規模港湾施設でもあり、近代港湾史上、価値が高いものとして、重要文化財の指定となりました。

小樽港湾事務所では、先人たちが築いた技術力と挑戦の精神を受け継ぎ、これらの歴史的資産の保全と活用に一層取り組んでまいります。

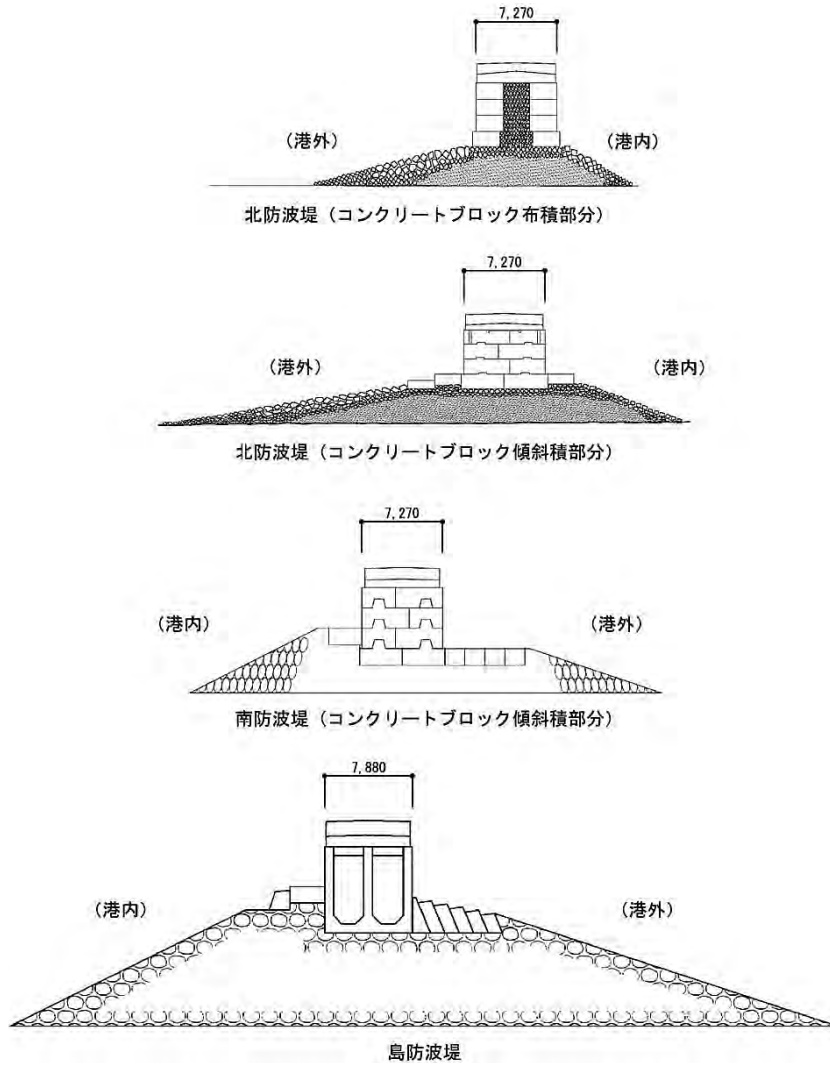


図-1 小樽港防波堤施設 断面図

# 小樽港が北海道で初めての 「みなと緑地PPP」に認定

～港湾環境整備計画制度(みなと緑地PPP)の道内1号案件が認定されました～

小樽市 産業港湾部 港湾室  
北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

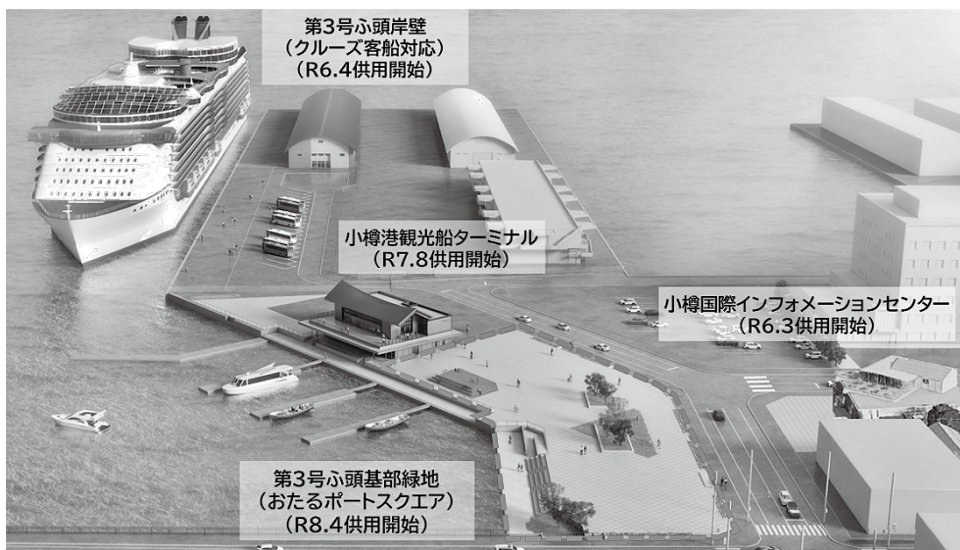
小樽港は、古くから鮭や鯨の豊漁地として知られてきましたが、明治初頭に石炭の積出しや内陸部への物資供給の中継港として発展し、明治32年に外国貿易港に指定されて以来、開港から126年を迎える歴史ある北海道日本海側の重要港湾です。近年では、物流拠点としてだけでなく、クルーズ振興を核とした観光・交流拠点としての役割も果たしています。

小樽港第3号ふ頭においては、令和6年4月に大型クルーズ船対応岸壁等が整備され、周辺では令和6年3月に小樽国際インフォメーションセンターのオープン、令和7年8月には小樽港観光船ターミナルが供用開始されており、これらの大部分は「みなとオアシス小樽」を構成する施設として、市民の交流の場や観光地として賑わいの場となっております。

国土交通省港湾局では、みなとの賑わい空間を創出するための制度として、民間事業者に対し、港湾緑地等の行政財産の長期貸付け（概ね30年以内）をすることで、カフェ等の収益施設の整備と収益の一部を還元して緑地等のリニューアルや維持管理を行うことを可能とする認定制度（みなと緑地PPP）を創設しました。

小樽市（小樽港港湾管理者）では、第3号ふ頭及び周辺区域において、周辺の観光資源との連携による回遊性の向上と地域活性化を図ることを目的として、みなと緑地PPP制度を活用した民間事業者の公募を行い、令和8年3月31日に港湾環境整備計画の認定を行いました。なお、本件は北海道での1号案件（全国6号案件）となります。

令和8年4月1日に供用が開始された第3号ふ頭基部緑地「おたるポートスクエア」では、7月に認定事業者である株式会社小樽観光振興公社によるコンテナカフェ等のオープンを予定しており、港湾緑地等におけるさらなる賑わい空間の創出が期待されます。



小樽港第3号ふ頭基部緑地周辺における賑わい空間の整備状況

刊行書籍のご案内

# 関口信一郎著 北海道みなとまちの歴史 【増補改訂版】刊行 —近代築港と北のフロンティア—

＜北海道の港町形成史と近代築港のルーツを北海道開拓の歩みとともに辿る独創的通史＞

令和3年（2021年）、北海道開拓と港町の形成に、明治期に海外から移植された近代築港の科学と技術が貢献した事実を明らかにした本邦初の港湾史（北海道みなとまちの歴史）が新たに6章を増補したりリニューアル版として刊行されます。

千島列島を含む北海道の開拓と港町の展開を海陸の交通ネットワークと北洋漁業をはじめとする産業の進展を軸に概説。さらに函館・小樽・苫小牧・釧路・室蘭・網走・留萌・稚内など道内11港について詳述しています。

同時に港の建設とそれに伴う産業経済の発展により港町が発展した過程が歴史的・空間的に把握できるように配慮しました。小樽運河や釧路港の建設過程など従来の歴史書において不正確な点も訂正した北海道港湾史の決定版です。

刊行予定：令和8年9月

装丁：A4判 並製478ページ

予価：4,840円（税込み）

出版社：亜細亜社（アリス社）

申し込み方法：FAX：011-221-5386

亜細亜社◎2026年刊行書籍のご案内

関口信一郎(著)

【増補改訂版】

## 北海道みなとまちの歴史

近代築港と北のフロンティア

北海道の港町形成史と近代築港のルーツを  
北海道開拓の歩みとともに辿る独創的通史

この北海道開拓と港町の形成に、明治期に海外から移植された近代築港の科学と技術が貢献した事実を明らかにした本邦初の港湾史が、新たに6章を増補したりリニューアル版として刊行。

千島列島を含む北海道の開拓と港町の展開を、海陸の交通ネットワークと北洋漁業をはじめとする産業の進展を軸に概説。さらに、函館・小樽・苫小牧・釧路・室蘭・網走・留萌・稚内など道内11港について詳述を計画。

同時に、港の建設とそれに伴う産業経済の発展により港町が発展した過程が歴史的・空間的に把握できるように配慮。小樽運河や釧路港の建設過程など従来の歴史書において不正確な点も訂正した北海道港湾史の決定版です。

A4判並製・478ページ＋付録  
予価4,840円（本体4,400円＋税）

※2026年9月刊行予定

本書を推薦します—佐伯浩 北海道大学名誉教授（現代史文庫刊）、文学博士、  
（一社）北海道歴史文化研究所センター名誉所長  
本書は北海道における初めての港湾の歴史である。その発展の過程を多面的に捉え、  
北海道の港と港町の歴史を知る好読の書物として推薦します。

ご注文  
ご注文  
ご注文  
ご注文

◎購入者様へ  
◎発行元へ  
◎ご注文先へ

【増補改訂版】北海道みなとまちの歴史

用紙1冊（一底）並製 定価4,840円（税込）ご注文FAX→011-221-5386

【増補改訂版】北海道みなとまちの歴史◎目次

第1章 北海道の開拓と港の建設	第6章 網走
1.1 江戸時代から 開拓時代（1800～1850）	6.1 網走の港町と港の建設
1.2 開拓時代（1850～1910）	6.2 網走の発展と、再編成の歴史
1.3 開拓時代（1910～1945）	6.3 網走の発展と、再編成の歴史
1.4 開拓時代（1945～1950）	6.4 網走の発展と、再編成の歴史
1.5 開拓時代（1950～1960）	6.5 網走の発展と、再編成の歴史
1.6 開拓時代（1960～1970）	6.6 網走の発展と、再編成の歴史
1.7 開拓時代（1970～1980）	6.7 網走の発展と、再編成の歴史
1.8 開拓時代（1980～1990）	6.8 網走の発展と、再編成の歴史
1.9 開拓時代（1990～2000）	6.9 網走の発展と、再編成の歴史
1.10 開拓時代（2000～）	6.10 網走の発展と、再編成の歴史
第2章 函館	第7章 留萌
2.1 江戸時代から 開拓時代（1800～1850）	7.1 留萌の港町と港の建設
2.2 開拓時代（1850～1910）	7.2 留萌の発展と、再編成の歴史
2.3 開拓時代（1910～1945）	7.3 留萌の発展と、再編成の歴史
2.4 開拓時代（1945～1950）	7.4 留萌の発展と、再編成の歴史
2.5 開拓時代（1950～1960）	7.5 留萌の発展と、再編成の歴史
2.6 開拓時代（1960～1970）	7.6 留萌の発展と、再編成の歴史
2.7 開拓時代（1970～1980）	7.7 留萌の発展と、再編成の歴史
2.8 開拓時代（1980～1990）	7.8 留萌の発展と、再編成の歴史
2.9 開拓時代（1990～2000）	7.9 留萌の発展と、再編成の歴史
2.10 開拓時代（2000～）	7.10 留萌の発展と、再編成の歴史
第3章 小樽	第8章 稚内
3.1 江戸時代から 開拓時代（1800～1850）	8.1 稚内の港町と港の建設
3.2 開拓時代（1850～1910）	8.2 稚内の発展と、再編成の歴史
3.3 開拓時代（1910～1945）	8.3 稚内の発展と、再編成の歴史
3.4 開拓時代（1945～1950）	8.4 稚内の発展と、再編成の歴史
3.5 開拓時代（1950～1960）	8.5 稚内の発展と、再編成の歴史
3.6 開拓時代（1960～1970）	8.6 稚内の発展と、再編成の歴史
3.7 開拓時代（1970～1980）	8.7 稚内の発展と、再編成の歴史
3.8 開拓時代（1980～1990）	8.8 稚内の発展と、再編成の歴史
3.9 開拓時代（1990～2000）	8.9 稚内の発展と、再編成の歴史
3.10 開拓時代（2000～）	8.10 稚内の発展と、再編成の歴史
第4章 釧路	第9章 千島列島
4.1 江戸時代から 開拓時代（1800～1850）	9.1 千島列島の開拓と港の建設
4.2 開拓時代（1850～1910）	9.2 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.3 開拓時代（1910～1945）	9.3 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.4 開拓時代（1945～1950）	9.4 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.5 開拓時代（1950～1960）	9.5 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.6 開拓時代（1960～1970）	9.6 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.7 開拓時代（1970～1980）	9.7 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.8 開拓時代（1980～1990）	9.8 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.9 開拓時代（1990～2000）	9.9 千島列島の発展と、再編成の歴史
4.10 開拓時代（2000～）	9.10 千島列島の発展と、再編成の歴史
第5章 室蘭	第10章 根室
5.1 江戸時代から 開拓時代（1800～1850）	10.1 根室の港町と港の建設
5.2 開拓時代（1850～1910）	10.2 根室の発展と、再編成の歴史
5.3 開拓時代（1910～1945）	10.3 根室の発展と、再編成の歴史
5.4 開拓時代（1945～1950）	10.4 根室の発展と、再編成の歴史
5.5 開拓時代（1950～1960）	10.5 根室の発展と、再編成の歴史
5.6 開拓時代（1960～1970）	10.6 根室の発展と、再編成の歴史
5.7 開拓時代（1970～1980）	10.7 根室の発展と、再編成の歴史
5.8 開拓時代（1980～1990）	10.8 根室の発展と、再編成の歴史
5.9 開拓時代（1990～2000）	10.9 根室の発展と、再編成の歴史
5.10 開拓時代（2000～）	10.10 根室の発展と、再編成の歴史
第6章 留萌	第11章 岩内
6.1 留萌の港町と港の建設	11.1 岩内の港町と港の建設
6.2 留萌の発展と、再編成の歴史	11.2 岩内の発展と、再編成の歴史
6.3 留萌の発展と、再編成の歴史	11.3 岩内の発展と、再編成の歴史
6.4 留萌の発展と、再編成の歴史	11.4 岩内の発展と、再編成の歴史
6.5 留萌の発展と、再編成の歴史	11.5 岩内の発展と、再編成の歴史
6.6 留萌の発展と、再編成の歴史	11.6 岩内の発展と、再編成の歴史
6.7 留萌の発展と、再編成の歴史	11.7 岩内の発展と、再編成の歴史
6.8 留萌の発展と、再編成の歴史	11.8 岩内の発展と、再編成の歴史
6.9 留萌の発展と、再編成の歴史	11.9 岩内の発展と、再編成の歴史
6.10 留萌の発展と、再編成の歴史	11.10 岩内の発展と、再編成の歴史
第7章 釧路	第12章 稚内
7.1 釧路の港町と港の建設	12.1 稚内の港町と港の建設
7.2 釧路の発展と、再編成の歴史	12.2 稚内の発展と、再編成の歴史
7.3 釧路の発展と、再編成の歴史	12.3 稚内の発展と、再編成の歴史
7.4 釧路の発展と、再編成の歴史	12.4 稚内の発展と、再編成の歴史
7.5 釧路の発展と、再編成の歴史	12.5 稚内の発展と、再編成の歴史
7.6 釧路の発展と、再編成の歴史	12.6 稚内の発展と、再編成の歴史
7.7 釧路の発展と、再編成の歴史	12.7 稚内の発展と、再編成の歴史
7.8 釧路の発展と、再編成の歴史	12.8 稚内の発展と、再編成の歴史
7.9 釧路の発展と、再編成の歴史	12.9 稚内の発展と、再編成の歴史
7.10 釧路の発展と、再編成の歴史	12.10 稚内の発展と、再編成の歴史
第8章 小樽	第13章 網走
8.1 小樽の港町と港の建設	13.1 網走の港町と港の建設
8.2 小樽の発展と、再編成の歴史	13.2 網走の発展と、再編成の歴史
8.3 小樽の発展と、再編成の歴史	13.3 網走の発展と、再編成の歴史
8.4 小樽の発展と、再編成の歴史	13.4 網走の発展と、再編成の歴史
8.5 小樽の発展と、再編成の歴史	13.5 網走の発展と、再編成の歴史
8.6 小樽の発展と、再編成の歴史	13.6 網走の発展と、再編成の歴史
8.7 小樽の発展と、再編成の歴史	13.7 網走の発展と、再編成の歴史
8.8 小樽の発展と、再編成の歴史	13.8 網走の発展と、再編成の歴史
8.9 小樽の発展と、再編成の歴史	13.9 網走の発展と、再編成の歴史
8.10 小樽の発展と、再編成の歴史	13.10 網走の発展と、再編成の歴史
第9章 函館	第14章 室蘭
9.1 函館の港町と港の建設	14.1 室蘭の港町と港の建設
9.2 函館の発展と、再編成の歴史	14.2 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.3 函館の発展と、再編成の歴史	14.3 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.4 函館の発展と、再編成の歴史	14.4 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.5 函館の発展と、再編成の歴史	14.5 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.6 函館の発展と、再編成の歴史	14.6 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.7 函館の発展と、再編成の歴史	14.7 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.8 函館の発展と、再編成の歴史	14.8 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.9 函館の発展と、再編成の歴史	14.9 室蘭の発展と、再編成の歴史
9.10 函館の発展と、再編成の歴史	14.10 室蘭の発展と、再編成の歴史

関口信一郎(著)「プロファイル」  
1976年東京生まれ。1997年北海道大学工学部卒業。工学部卒業後、1997年～1998年、1999年～2000年、2001年～2002年、2003年～2004年、2005年～2006年、2007年～2008年、2009年～2010年、2011年～2012年、2013年～2014年、2015年～2016年、2017年～2018年、2019年～2020年、2021年～2022年、2023年～2024年、2025年～2026年、2027年～2028年、2029年～2030年、2031年～2032年、2033年～2034年、2035年～2036年、2037年～2038年、2039年～2040年、2041年～2042年、2043年～2044年、2045年～2046年、2047年～2048年、2049年～2050年、2051年～2052年、2053年～2054年、2055年～2056年、2057年～2058年、2059年～2060年、2061年～2062年、2063年～2064年、2065年～2066年、2067年～2068年、2069年～2070年、2071年～2072年、2073年～2074年、2075年～2076年、2077年～2078年、2079年～2080年、2081年～2082年、2083年～2084年、2085年～2086年、2087年～2088年、2089年～2090年、2091年～2092年、2093年～2094年、2095年～2096年、2097年～2098年、2099年～2100年、2101年～2102年、2103年～2104年、2105年～2106年、2107年～2108年、2109年～2110年、2111年～2112年、2113年～2114年、2115年～2116年、2117年～2118年、2119年～2120年、2121年～2122年、2123年～2124年、2125年～2126年、2127年～2128年、2129年～2130年、2131年～2132年、2133年～2134年、2135年～2136年、2137年～2138年、2139年～2140年、2141年～2142年、2143年～2144年、2145年～2146年、2147年～2148年、2149年～2150年、2151年～2152年、2153年～2154年、2155年～2156年、2157年～2158年、2159年～2160年、2161年～2162年、2163年～2164年、2165年～2166年、2167年～2168年、2169年～2170年、2171年～2172年、2173年～2174年、2175年～2176年、2177年～2178年、2179年～2180年、2181年～2182年、2183年～2184年、2185年～2186年、2187年～2188年、2189年～2190年、2191年～2192年、2193年～2194年、2195年～2196年、2197年～2198年、2199年～2200年、2201年～2202年、2203年～2204年、2205年～2206年、2207年～2208年、2209年～2210年、2211年～2212年、2213年～2214年、2215年～2216年、2217年～2218年、2219年～2220年、2221年～2222年、2223年～2224年、2225年～2226年、2227年～2228年、2229年～2230年、2231年～2232年、2233年～2234年、2235年～2236年、2237年～2238年、2239年～2240年、2241年～2242年、2243年～2244年、2245年～2246年、2247年～2248年、2249年～2250年、2251年～2252年、2253年～2254年、2255年～2256年、2257年～2258年、2259年～2260年、2261年～2262年、2263年～2264年、2265年～2266年、2267年～2268年、2269年～2270年、2271年～2272年、2273年～2274年、2275年～2276年、2277年～2278年、2279年～2280年、2281年～2282年、2283年～2284年、2285年～2286年、2287年～2288年、2289年～2290年、2291年～2292年、2293年～2294年、2295年～2296年、2297年～2298年、2299年～2300年、2301年～2302年、2303年～2304年、2305年～2306年、2307年～2308年、2309年～2310年、2311年～2312年、2313年～2314年、2315年～2316年、2317年～2318年、2319年～2320年、2321年～2322年、2323年～2324年、2325年～2326年、2327年～2328年、2329年～2330年、2331年～2332年、2333年～2334年、2335年～2336年、2337年～2338年、2339年～2340年、2341年～2342年、2343年～2344年、2345年～2346年、2347年～2348年、2349年～2350年、2351年～2352年、2353年～2354年、2355年～2356年、2357年～2358年、2359年～2360年、2361年～2362年、2363年～2364年、2365年～2366年、2367年～2368年、2369年～2370年、2371年～2372年、2373年～2374年、2375年～2376年、2377年～2378年、2379年～2380年、2381年～2382年、2383年～2384年、2385年～2386年、2387年～2388年、2389年～2390年、2391年～2392年、2393年～2394年、2395年～2396年、2397年～2398年、2399年～2400年、2401年～2402年、2403年～2404年、2405年～2406年、2407年～2408年、2409年～2410年、2411年～2412年、2413年～2414年、2415年～2416年、2417年～2418年、2419年～2420年、2421年～2422年、2423年～2424年、2425年～2426年、2427年～2428年、2429年～2430年、2431年～2432年、2433年～2434年、2435年～2436年、2437年～2438年、2439年～2440年、2441年～2442年、2443年～2444年、2445年～2446年、2447年～2448年、2449年～2450年、2451年～2452年、2453年～2454年、2455年～2456年、2457年～2458年、2459年～2460年、2461年～2462年、2463年～2464年、2465年～2466年、2467年～2468年、2469年～2470年、2471年～2472年、2473年～2474年、2475年～2476年、2477年～2478年、2479年～2480年、2481年～2482年、2483年～2484年、2485年～2486年、2487年～2488年、2489年～2490年、2491年～2492年、2493年～2494年、2495年～2496年、2497年～2498年、2499年～2500年、2501年～2502年、2503年～2504年、2505年～2506年、2507年～2508年、2509年～2510年、2511年～2512年、2513年～2514年、2515年～2516年、2517年～2518年、2519年～2520年、2521年～2522年、2523年～2524年、2525年～2526年、2527年～2528年、2529年～2530年、2531年～2532年、2533年～2534年、2535年～2536年、2537年～2538年、2539年～2540年、2541年～2542年、2543年～2544年、2545年～2546年、2547年～2548年、2549年～2550年、2551年～2552年、2553年～2554年、2555年～2556年、2557年～2558年、2559年～2560年、2561年～2562年、2563年～2564年、2565年～2566年、2567年～2568年、2569年～2570年、2571年～2572年、2573年～2574年、2575年～2576年、2577年～2578年、2579年～2580年、2581年～2582年、2583年～2584年、2585年～2586年、2587年～2588年、2589年～2590年、2591年～2592年、2593年～2594年、2595年～2596年、2597年～2598年、2599年～2600年、2601年～2602年、2603年～2604年、2605年～2606年、2607年～2608年、2609年～2610年、2611年～2612年、2613年～2614年、2615年～2616年、2617年～2618年、2619年～2620年、2621年～2622年、2623年～2624年、2625年～2626年、2627年～2628年、2629年～2630年、2631年～2632年、2633年～2634年、2635年～2636年、2637年～2638年、2639年～2640年、2641年～2642年、2643年～2644年、2645年～2646年、2647年～2648年、2649年～2650年、2651年～2652年、2653年～2654年、2655年～2656年、2657年～2658年、2659年～2660年、2661年～2662年、2663年～2664年、2665年～2666年、2667年～2668年、2669年～2670年、2671年～2672年、2673年～2674年、2675年～2676年、2677年～2678年、2679年～2680年、2681年～2682年、2683年～2684年、2685年～2686年、2687年～2688年、2689年～2690年、2691年～2692年、2693年～2694年、2695年～2696年、2697年～2698年、2699年～2700年、2701年～2702年、2703年～2704年、2705年～2706年、2707年～2708年、2709年～2710年、2711年～2712年、2713年～2714年、2715年～2716年、2717年～2718年、2719年～2720年、2721年～2722年、2723年～2724年、2725年～2726年、2727年～2728年、2729年～2730年、2731年～2732年、2733年～2734年、2735年～2736年、2737年～2738年、2739年～2740年、2741年～2742年、2743年～2744年、2745年～2746年、2747年～2748年、2749年～2750年、2751年～2752年、2753年～2754年、2755年～2756年、2757年～2758年、2759年～2760年、2761年～2762年、2763年～2764年、2765年～2766年、2767年～2768年、2769年～2770年、2771年～2772年、2773年～2774年、2775年～2776年、2777年～2778年、2779年～2780年、2781年～2782年、2783年～2784年、2785年～2786年、2787年～2788年、2789年～2790年、2791年～2792年、2793年～2794年、2795年～2796年、2797年～2798年、2799年～2800年、2801年～2802年、2803年～2804年、2805年～2806年、2807年～2808年、2809年～2810年、2811年～2812年、2813年～2814年、2815年～2816年、2817年～2818年、2819年～2820年、2821年～2822年、2823年～2824年、2825年～2826年、2827年～2828年、2829年～2830年、2831年～2832年、2833年～2834年、2835年～2836年、2837年～2838年、2839年～2840年、2841年～2842年、2843年～2844年、2845年～2846年、2847年～2848年、2849年～2850年、2851年～2852年、2853年～2854年、2855年～2856年、2857年～2858年、2859年～2860年、2861年～2862年、2863年～2864年、2865年～2866年、2867年～2868年、2869年～2870年、2871年～2872年、2873年～2874年、2875年～2876年、2877年～2878年、2879年～2880年、2881年～2882年、2883年～2884年、2885年～2886年、2887年～2888年、2889年～2890年、2891年～2892年、2893年～2894年、2895年～2896年、2897年～2898年、2899年～2900年、2901年～2902年、2903年～2904年、2905年～2906年、2907年～2908年、2909年～2910年、2911年～2912年、2913年～2914年、2915年～2916年、2917年～2918年、2919年～2920年、2921年～2922年、2923年～2924年、2925年～2926年、2927年～2928年、2929年～2930年、2931年～2932年、2933年～2934年、2935年～2936年、2937年～2938年、2939年～2940年、2941年～2942年、2943年～2944年、2945年～2946年、2947年～2948年、2949年～2950年、2951年～2952年、2953年～2954年、2955年～2956年、2957年～2958年、2959年～2960年、2961年～2962年、2963年～2964年、2965年～2966年、2967年～2968年、2969年～2970年、2971年～2972年、2973年～2974年、2975年～2976年、2977年～2978年、2979年～2980年、2981年～2982年、2983年～2984年、2985年～2986年、2987年～2988年、2989年～2990年、2991年～2992年、2993年～2994年、2995年～2996年、2997年～2998年、2999年～3000年、3001年～3002年、3003年～3004年、3005年～3006年、3007年～30

## ◎事務局だより◎

### ◎訃報

当協会会員 石塚建設興業株式会社 代表取締役会長  
石塚宗博氏が令和8年3月13日ご逝去されました。

石塚宗博氏は長年にわたり建設業界の発展に尽力され、平成11年から6年間稚内建設協会会長を務められました。平成7年藍綬褒章、平成12年稚内市政功労者表彰、平成15年には勲五等双光旭日章を受章されました。また、平成14年から稚内港湾振興会会長を歴任され、平成19年には北海道開発局港湾功労者としても表彰されました。

ここに謹んでお悔み申し上げます。



### 故 石塚 宗博 氏

昭和7年10月生まれ

(満95歳)

#### 略歴

昭和32年3月	大阪府立大学工学部	卒業
昭和32年3月	石塚造船建設所	就職
昭和40年10月	石塚建設興業株式会社	専務取締役
昭和44年3月	石塚建設興業株式会社	代表取締役社長
平成17年4月	石塚建設興業株式会社	代表取締役会長

#### 団体歴

昭和52年4月	北海道建築士会宗谷支部	支部長
平成6年12月	社団法人稚内商工会議所	常議員
平成11年2月	稚内建設協会	会長
平成11年2月	稚内市建友会	会長
平成11年5月	社団法人北海道建設業協会	理事
平成13年11月	社団法人稚内商工会議所	副会頭
平成14年5月	稚内港湾振興会	会長

## ◎行事

### 1. 令和7年度 第3回広報委員会

月日：令和8年2月12日（メール開催）

概要：会報（北のみなど117号）掲載内容

### 2. 日本港湾空港建設協会連合会 第91回運営委員会

月日：令和8年2月16日

場所：KKRホテル東京

概要：連合会表彰、総会議案審議（西村副会長出席）

### 3. 令和7年度 安全管理講習会

月日：令和7年2月19日

場所：ホテル札幌ガーデンパレス

概要：北海道開発局、北海道労働局及び建災防から講師を招聘した安全管理に係る講習会（港湾係7団体共催）

### 4. 令和7年度 港湾空港工事報告会

月日：令和7年2月19日

場所：ホテル札幌ガーデンパレス

概要：港湾・空港・水産関係工事に係る報告及びワインクラスター北海道の阿部理事を招聘した特別講演

### 5. 常任理事会

月日：令和7年3月3日

場所：ホテル札幌ガーデンパレス

概要：総会議案審議、各種表彰

### 6. 第49回理事会及び第41回通常総会

月日：令和8年4月16日

場所：ホテル札幌ガーデンパレス

概要：令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画

## ◎業界だより◎

### ◎会員代表者の交代

●あおみ建設株式会社北海道支店

支店長 吉見 幸教 令和8年4月

●株式会社工藤組

代表取締役社長 福西 秀幸 令和8年4月

●清水建設株式会社北海道支店

執行役員支店長 清水 宏 令和8年4月

●みらい建設工業株式会社北海道支店

支店長 大井 光治 令和8年4月

●RN建設株式会社北海道支店

(旧社名：りんかい日産建設株式会社)

支店長 坂本 則雄 令和8年4月

## ◎広報委員会だより◎

令和8年4月現在の広報委員は以下のとおりです。

委員長	小林 孝範	東亜建設工業(株)
副委員長	古田 圭也	東洋建設(株)
(部会長)	宮部 秀一	(株)菅原組
(副部会長)	上野 強	釧石工業(株)
	高木 哲夫	萩原建設工業(株)
	千葉 不二夫	勇建設(株)
	小玉 茂義	東亜建設工業(株)
	今林 弘	菱中建設(株)
	阿部 勝	五洋建設(株)
	相馬 洋	近藤工業(株)
	岡元 節雄	(株)不動テトラ
	高橋 啓司	あおみ建設(株)

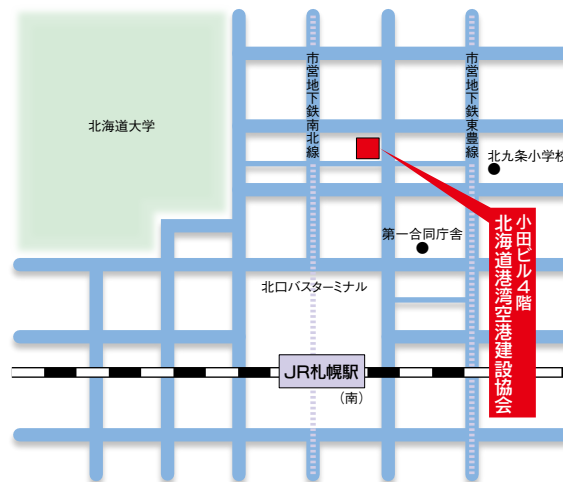
\*広報委員会からのお願い

1. 新造船（機械・装置含む）の紹介
2. 注目される工事の着工、完成
3. 工事現場の紹介
4. 各地域の技術研究会・イメージアップ事業  
等のご投稿をお待ちしております。



〔写真提供：稚内港湾事務所〕

## 北海道港湾空港建設協会 案内図



## 会報「北のみなと」No.117

発行年月 令和8年5月  
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 藤田 幸洋  
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)  
 TEL(011)707-4731 FAX(011)707-4733  
<https://www.hokkaido-kkk.jp>  
 Email:hkkk@h4.dion.ne.jp  
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会  
 編集責任者 宮部 秀一  
 印刷 (株)須田製版